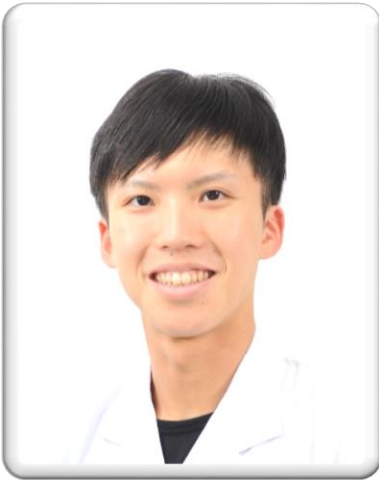




会津医療センターから こんにちは！



【8】

研修医
前田 駿介

『古里で医師の土台作り』

この春から会津医療センターの研修医となりました。生まれも育ちもここ会津です。故郷のこの地で医師としてのスタートを切れることを大変うれしく思います。

皆さんは研修医についてご存じでしょうか。研修医は初期研修医と後期研修医とに大別されますが、一般に「研修医」という場合は前者を意味します。研修医は各診療科をまわり、様々な疾患を幅広く学びます。医師としての土台作りの期間といったところでしょうか。身につけるべき知識や技術は膨大です。わからない疾患は診断も治療もできませんし、技術がなければ必要な処置をすることはできません。文献を読み、上級医の指導を仰ぎ、日々勉強です。

研修医は上級医の指導のもとに、問診や診察、各種手技を実施することがあります。確認すべきことが抜けていたり、処置をする手が震えていたり、なりたての頃はなんとも頼りない姿でしたが、だんだんとできることは増えています。同期の言葉を借りると、われわれ研修医は「親鳥の後を追いかける雛鳥」のような存在ですが、幼鳥くらいにはなれたでしょうか…。

時には皆さんからアドバイスをいただくこともあります。「〇〇をもっと詳しく聞いてほしかった」など、皆さんからの生の声は、次の一步を踏み出す大きなきっかけとなります。研修医の診察、立ち合いを快諾していただいたり、温かい励ましのお言葉を頂いたり、会津人の優しさを痛感しているところです。医師人生は初期研修で決まる、なんて言葉がありますが、これからも初心を忘れずに精進していく所存です。

さて、12月も終わりが近づいています。会津の冬はこれからが本番といったところでしょうか。聞くとところによると、当センターの周辺は地吹雪になることもあるか…。ご来院の際はどうかお気をつけください。そしてあれよあれよという間に年末です。不摂生はほどほどに、心身ともに健康な状態で新年を迎えたいですね。それでは皆さん、よいお年を！